

## 7. 利用分野

リモートセンシングデータを国土管理に利用する場合の利用分野を以下に示す。

### (1) 陸域の解析に関する検討

陸域の解析において、自然物（植生や農地）と人工物では、目的により解析に用いる手法、使用データ等が異なってくると考えられる。陸域で取得できる情報と解析手法を表7-1に示す。

表 7-1 陸域の解析

項番	機能	取得できる情報と解析手法	必要分解能			波長帯 [μm]
			高	中	低	
a)	自然環境の解析	<b>【広域の情報把握】</b> - 山林における植生や、植林の状態 - 農地における発育状態、休地等の状態 - 高度 - 開発の進行  <b>【解析手法】</b> - 目視での観察 - 輝度値の統計量の解析 - 画像分類 - サイズの計測 - 高度の算出				0.4 - 1.4 0.4 - 1.4 0.4 - 1.4 0.4 - 1.4
b)	都市の解析	<b>【局所的な情報】</b> - 道路、交通 - 建物等の増減  <b>【解析手法】</b> - 目視での観察 - 高度の算出 - エッジの抽出 - 画像間演算 - 画像分類				0.5 - 1.1 0.5 - 1.1

・必要分解能について、高：1～10[m]、中：10～100[m]、低：100～1000[m]をあらわす。

(2) 水域の解析に関する検討

水域の解析では、河川、海域（海洋、沿岸）等の目的により解析手法、使用データ等が異なる。表7-2に、それぞれの代表的な解析手法や使用データを示す。

表 7-2 水域の解析

項番	機能	内容	必要分解能			波長帯 [μm]
			高	中	低	
a)	海域の解析	<b>【広域の情報把握】</b> - 海岸域、沿岸水域 - 海面水温（海洋） - プランクトン等の大量発生（沿岸、赤潮）  <b>【解析手法】</b> - 目視での観察 （シュードカラーなどで、温度毎の表示） - 画像間演算 - サイズの計測 - 位置の計測				0.5 - 0.7 6.0 - 12.0 0.6 - 0.7
b)	河川の解析	<b>【広域の情報把握】</b> - 流域の変化 - 水量  <b>【解析手法】</b> - 目視での観察 - エッジの抽出 - 画像間演算 - サイズの計測 - 位置の計測				0.4 - 0.6 0.4 - 0.6

・必要分解能について、高：1～10[m]、中：10～100[m]、低：100～1000[m]をあらわす。

(3) 防災に関する検討

防災については、目的（どのような災害に対する防災か）に応じて、(1)、(2)で述べた手法により、求められたデータ（情報）を蓄積し、災害予測に役立てる必要がある。また、これらのデータは、災害発生後の対策にも利用できる必要がある。表7-3に、必要と考えられる機能を示す。

表 7-3 防災に関する検討

項番	機能	内容
a)	防災	- 地図（地理）情報の登録、検索 - 地図（地理）情報と、衛星データとのリンク - 地図（地理）情報と、解析結果とのリンク - 蓄積情報のトレンド解析 - 蓄積情報からのシミュレーション